

平成31年度包括的な国際資源管理体制構築事業のうち  
漁獲情報包括管理事業のうち電子タグ導入による流通管理実績報告書

団体名 電子タグによる流通管理事業共同企業体  
代表機関 一般社団法人責任あるまぐろ漁業推進機構

【事業の実施状況】

1. 調査項目及び調査対象

(1) 電子タグ漁獲管理システムの開発・実証

- 1) 電子タグ漁獲管理システムの開発
- 2) 電子タグ漁獲管理システムの実証

(2) 電子タグ情報によるトレーサビリティシステムの構築・導入

- 1) トレーサビリティシステムの構築実現性の調査検討、システムの開発

2. 事業実施期間

平成31年4月1日～令和2年3月23日

3. 担当者

一般社団法人責任あるまぐろ漁業推進機構  
株式会社富藤製作所  
田中船用品株式会社

4. 事業の成果（又はその概略）

(1) 電子タグ漁獲管理システムの開発・実証

1) 電子タグ漁獲管理システムの開発

① 電子タグの開発

従来型の遠距離型のUHF帯と近距離用のHF帯の両方のICチップを組み込んだ電子タグ（以下「従来型電子タグ」という）は小型化が難しいうえ高価なため、一般的に普及しているUHF帯のみのシールタイプのICチップを用いて小型で安価な電子タグ（以下「シールタイプ電子タグ」という）を製作し、超低温（約-60℃）下での耐久試験及び性能試験並びに従来型電子タグとの比較検証を行った。

② シールタイプ電子タグ読み取り用システム・ソフトウェア制作

これまでに開発してきた電子タグ漁獲管理システムや読み取り機用のソフトウェアでは、シールタイプ電子タグの規格に合致しないため、シールタイプ電子タグに対応出来るシステム、ソフトウェアの開発を行った。

2) 電子タグ漁獲管理システムの実証

① 遠洋まぐろ漁船での実証

3隻の遠洋まぐろ船のうち、1隻には従来型電子タグ450個、1隻にはイーガルド社製シールタイプ電子タグ450個、残りの1隻にはSmartrac社製シールタイプ電子タグ450個を配布、漁獲したくろまぐろの魚体への取り付けを依頼し、3隻のまぐろ漁船からは配布した電子タグすべてを漁獲したくろまぐろに装着した旨報告を受けた。

② 水揚げ時の読み取り実証

上記①の3隻のうち従来型電子タグを積み込んだ1隻について、また別途、湘南丸にてメバチに装着した分について、水揚げ時にハンディタイプのリーダーを使用して、魚体に装着された電子タグの読み取り実証試験を行った。（なお、上記①のうちシールタイプ電子タグを積み込んだ2隻については日本での水揚げが遅れ、事業年度内での実施はできなかった。）

③ 外国漁船への電子タグ漁獲管理システム導入の可能性についての調査検討

本事業とは別途中国漁船（2隻）の協力を得て実証試験を実施し、導入の可能性を検討した。

④ システムの運営検証

漁獲時記録データと水揚げ時読み取りデータの内容を分析しシステムの運用状況を検証した。

(2) 電子タグ情報によるトレーサビリティシステムの構築・導入

1) トレーサビリティシステムの構築実現性の調査検討

漁獲時に電子タグを装着した大西洋クロマグロを販売する小売店にて、QRコードラベルプリンターを用いてQRコードを商品に貼付し、実証試験を実施し、実現性を検討した。

以上。